

日本災害看護学会 令和6年能登半島地震・能登豪雨災害看護プロジェクト活動報告書

報告年月日：2024年10月1日（火）

活動隊員：紫 宇代

1. 活動期間

2024年9月27日（金）10：50～2024年9月28日（土）17：00

2. 活動場所

珠洲市大谷小中学校避難所

3. 避難状況

Ⅰ 死者・行方不明者（28日：時点）

石川県では、9月21日から22日にかけて大雨の特別警報が出され、記録的な大雨となり、河川の氾濫や土砂崩れが相次いだ。輪島市で9人、珠洲市で2人のあわせて11人の死亡が確認された。県によると、珠洲市と能登町であわせて2人が災害に巻き込まれたおそれがあり行方が分からない状態である。また、輪島市の4人とは今も連絡が取れず安否不明。

Ⅰ 避難生活：計456人（27日16時時点）

石川県によると27日午後4時の時点で、輪島市と珠洲市、それに能登町の3つの市と町の27か所に避難所が開設され、あわせて456人が避難している。避難者の人数の内訳は 輪島市が386人 珠洲市が63人 能登町が7人となっている。

Ⅰ 停電 約890戸（27日17時時点）

北陸電力送配電によると、27日午後5時の時点で、石川県能登地方では大雨による土砂崩れで電線が切れるなどして、あわせておよそ890戸で停電が続いている。

地域別では 輪島市でおよそ520戸 珠洲市でおよそ370戸 能登町で10戸未満となっている。北陸電力送配電によると浸水や土砂崩れで立ち入るのが難しい地域もあり、すべての地域での復旧のめどは立っていない。

Ⅰ 断水4200戸余（27日16時時点）

石川県によると、停電によるポンプ施設の停止や水道管の破損で断水が相次ぎ、27日午後4時の時点で 輪島市で2822戸 珠洲市で1253戸 能登町で178戸の、あわせて4253戸で水道が使用不可となっている。このため、3つの市と町では21台の給水車が活動している。（NHKWEB・2024.09.30閲覧）

4. 活動の実際

2024年9月27日（金）

06：30 北陸道鯖江インター乗降

・水害による道路復旧工事にて交通規制あり

10：50 珠洲市大谷小中学校到着

・本部長及び運営陣に挨拶を終える。本日の予定とされる段ボールベッドの組み立て及び希望者の確認を行う。ダンボールベッドの組み立ては行政（福井県）及び住民と実施する。

・体育館の換気に伴い、外からの砂ぼこりが入る為、床のざらつきが目立ち、適宜、モップ

を使用し、清掃を行う。

・地震での自宅の被害状況に加え、今回の水害での被害状況の聞き取り調査を行う。

11:00 日本赤十字社巡回訪問 診療希望の住民への介入と援護

11:30 避難所2階の清掃(からぶき・水ぶき・消毒) 福井県行政支援者・NPOと協働

11:50 女子トイレの環境整備と汚物処理・ゴミ捨て

12:30 休憩

13:00 新しく設置した段ボールベットへの名前の表記作成

13:20 健康チェック(1名、血圧測定・異常なし)

14:00 住民さんへの聞き取り調査(仮設入居希望や水害後の自宅の状況など)

14:30 在宅避難者の巡回訪問1名

・8月に妻を亡くし、独居となる。自宅は大谷町の山肌に立ち、地震で地割れあり。家屋は準半壊・納屋は半壊。納屋の裏山から大量の土砂が流入している。時折、金沢から娘が帰省してくる。今後は、金沢に転居していく予定もあるが、現時点では泥を片づけ、在宅避難生活を継続していくと話される。土砂の片付けに向けてのボランティアのニーズを確認すると、人の足跡が付くのが気になる為、介入は受けず自身で片付けたいと話される。次回、大雨が降ることによって土砂崩れ・土石流の増強が危惧されることから早めの避難を伝える。

15:30 大谷小中学校に戻る

15:45 組み立てた段ボールベットの設置やレイアウト・ブルーシートの養生・環境整備

17:00 支援物資搬入協働

17:25 ミッション終了

2024年9月28日(土)

8:30 運営ミーティング参加

・今後の水の搬入について・物資(洗濯機の搬入)についての申し送りあり。看護職の視点から女性の下着が不足している為、ミーティングで要望を出す。

9:00 環境整備・床の清掃・トイレ掃除と汚物処理を実施する。

・便器に45リットル用のごみ袋に凝固剤を入れ使用していることから汚物処理としてゴミがかさばる難点が見られた。加えて、高齢者にて結び目が弱く袋から排泄物が漏れていた。行政に依頼し、物資申請の際に簡易式トイレ専用の袋を注文する(午後便で届き、使用開始する)。

10:30 一階用具室1に高齢者用の選択物干し設置

・水の搬入に伴い洗濯が可能となる為、住民の洗濯物事情を確認した。現在の物干場が2階にあり、使用に気を遣うなどの意見が上がった。現在、砂ぼこりが舞う外には干せない為、1階の用具入れを整え、物干し場を増設する。住民からは、導線も短く、便利になったとの声が聞かれた。(増設はロープなどを使用し、ハンガーなどは既存の物を使用した)。

11:20 食事(冷やしうどん弁当)搬入・協働

12:00 休憩

12:30 洗濯物干し場づくり続きを行う。

13:00 健康チェック(お茶を入れ、くつろぎながら行う)。

- ・体調不良者なし。
- ・TVでは今回の水害の全貌（輪島や珠洲）が上空から撮影されているライブ映像が流れていた。その映像を見ながら「あ～あれ、私の家や。土砂で埋もれてしまつとる」との言葉が聞かれる。「地震より酷いな」と住民同士話されていた。

14：30 洗濯機の使用の手伝い・環境整備

- ・既存の全自動洗濯機の使用方法がわからない住民のニーズに応じて一緒に洗濯を行う。2台ある洗濯機は機能不良な点があり、スムーズに洗濯が実施できない難点がある。2機を使い分けて洗濯を実施した。

16：00 環境整備(トイレの汚物確認・体育館のフロアの清掃)行政(福井県)と協働する。

17：00 物資搬入・協働

17：10 運営陣・住民への挨拶・ミッション終了

5. 支援活動を通しての所感

住民の様子として、1月の地震の被害から「なんとか生き延びたけど。もう、家を建て直す気持ちや、エネルギーはないわ」の言葉が聞かれた。今回の水害の被害が重なり、気持ちが疲弊し「もうね、言葉がでんわ、神様おらんじゃるかと思った」や「もう、笑うしかないけど、ここまでなるとは思わなんだ」と話されている。

在宅避難者の自宅の現状としては、危険な家屋や亀裂している地盤のまま生活している。食料などは自家用で珠洲市内にて調達できているが、今後の台風や天候の変化によっては在宅避難の継続は2次災害の恐れが危惧される。避難所への避難のタイミングを取り決めておく必要があると考える。

今回の水害にて大谷小中学校に向かう経路(道路)の崩落や損傷が酷い状況にあり、復旧・復興に時間が要される。また、大谷峠の山肌から大量の土砂や立木が流れ落ち、道路の幅も狭い状況である。所々に水も流れていることから、再度、雨天によって土砂崩れが増す恐れがある為、学会として支援に入る際には正確な情報を得て、安全を期してコミットしなければならぬと考える。

以上。

6. 現地の状況

珠洲市・大谷地区

